

医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院

友朋会理念 『患者さんのために』



ものわすれメンタルクリニック(福岡市南区大楠2丁目275)

《新春号》 contents

1~2 2017年 年頭のご挨拶

3 ものわすれメンタルクリニック 新築移転について



2017年 年



理事長 中川 龍治

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、診療報酬改定の年で、実質的にはマイナス改定でしたが、友朋会におきましては、ここ数年間の入院率の伸び悩みから脱却でき、経営的には比較的順調な1年でありました。

昨年4月14日、16日の熊本地震の際、4月17日には熊本の精神科病院から、11人の患者さんを受け入れました。また、DPATなどによる被災地への人的派遣実施など、毎年目標に掲げております「被災地支援を継続する」という意識が、当院なりに形

にすることができたのではないかと考えております。あらためて、熊本地震で被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

新しい年に当たり、理念を貫き、継続する大切さを胸に下記の指針「基本」のもとに以下の目標達成に挑んでいきたいと思っております。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2017年 友朋会の指針 「基本」

平成30年には、診療報酬・介護報酬の同時改定、総合支援法における障害報酬の改定、第7次医療計画の策定、第5期障害福祉計画の策定、第7期介護保険事業計画の策定などが同時に施行されます。それらに向けて、各都道府県レベルで地域包括ケア、地域医療構想などの話し合いも進められており、日本における社会保障制度そのものの転換期となる年になるかもしれないという危機感があります。

このような時だからこそ、足元を見て、人を得て、基本に忠実に人を育てる、そして、それをシステムとして機能させることができるということが必要です。そのための目標です。

2017年 友朋会の目標

- 目標① 医療者としての基本姿勢、基本のあり方に関する教育・研修体制を更に充実させる
- 目標② 基本姿勢を再認識するために、「患者さんのために」という理念のもとに「言葉遣い」から始めて、接遇、医療、看護、介護、福祉のあり方の教育方法とその徹底方法を再検討する
- 目標③ 近年の職員移動の状況を鑑み、医療機関の基本となる「感染」「医療安全」「行動制限最小化」に関する教育システムを抜本的に検討し、「基本」の築き方を見直す
- 目標④ ものわすれメンタルクリニックの新築移転を成功させ、新規事業を軌道に乗せる
- 目標⑤ 2016年に移行した新体制のもと、更なる組織充実を図り、人事考課を実のあるものにする
- 目標⑥ 人材確保のシステムを再検討する 特に医師・薬剤師・看護師・介護職の雇用に最善を尽くす
- 目標⑦ 被災地支援を継続するとともに、友朋会の災害マニュアルを完成させる

頭のご挨拶

「基本に帰る」、「初心に帰る」、「足元を見つめ直す」医療人として、常に行っていることではありますが、言葉にして、目標にして、行動してみて、新たな発見を得たいと念じます。

また、この1年、我々友朋会職員一同は、誠意をもって真摯に、研ぎ澄まされた一人一人がひとつとなり、どんな小さなことでもひとつずつ根気強く積み重ね、前を向いて、しっかりと精進していきましょう。



嬉野温泉病院 副院長 竹下 吉明

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年4月に大役を拝命し、友朋会理念「患者さんのために」を常に心に留めて「安全で質の高いチーム医療を実践し、地域の医療・福祉の向上に貢献する」などの基本方針に基づいた医療を実践できるよう行動してきました。まだまだ至らない点も多く皆様には御迷惑をおかけしています。

昨年は相模原の障がい者施設での事件や川崎の有料老人ホームでの事件、横浜の病院での事件など医療や福祉に関する衝撃的な事件や事故

がいくつもありました。改めて自分自身の医療や福祉に対する考えや取り組みを振り返るとともに、友朋会の職場環境のさらなる改善に向けて職責を全うしていきたいと思えます。

今年は平成30年度の医療保険制度と介護保険制度の同時改正・報酬改定に向けて準備を進め対応していく必要があります。

医療や福祉を取り巻く厳しい環境下でも佐賀県嬉野の地で地域医療や福祉を直接支えていくのが私たちの役割です。いままでも友朋会職員一丸となり一緒に乗り切ってくることができました。まずは目の前の課題を一つ一つ真摯に着実に取り組んでいきましょう。さらに充実した一年になるよう一緒に頑張りましょう。

本年もよろしくお願いいたします。



ものわすれメンタルクリニック 新築移転について

理事長 中川 龍治

1999年3月に福岡市南区大楠に開業いたしました「ものわすれメンタルクリニック」は、西鉄平尾駅に徒歩1分という好立地条件のビルの3階(通所リハ)、4階(外来)をお借りして診療してまいりました。

この度、現在のクリニックから、500メートルほど高宮寄りの場所にご縁がありまして、4階建てのビルを新築し、移転することとなりました。

2017年1月9日に竣工式が終了し、2月1日移転開業致しました。

クリニックは前理事長の中川保孝が「認知症の初期の患者さんに芸術療法を」と夢を追った場所です。夢の続きをさらに具現化したいとの覚悟で、職員一同、一丸となって邁進いたします。

ものわすれメンタルクリニック 院長 芹川佳代子

ものわすれメンタルクリニックは、開院して約18年が経過しました。開院時と比較すると日本の認知症患者数は約3倍に増加しています。

外来のニーズは量的にも質的にも高まっています。地域の方々の診療のニーズにしっかりと応えとともに、認知症の方・認知症の家族の方・認知症予防を期待する方・認知症のことを学びたい方・ボランティア活動希望の方など様々な人が集える場所、繋がれる場所になる様にクリニックを創り上げていきたいと思っております。

看護師長 早瀬雄一郎

今回、ものわすれメンタルクリニックの新築移転の準備に携わる機会をいただきました。そこで、「新生」クリニックをご紹介します。

1階は、既存事業の診療所・居宅介護支援事業所があるフロアです。通所系サービスの利用促進につながる芸術療法の成果を展示するスペースを設けました。(写真①)

2階は、通所リハビリテーション事業所(デイケア・既存事業)です。芸術療法を中心としたプログラムであることから、名前が「アトリア」に変わりました。(写真②)

認知症初期の方の(有酸素)運動のニーズが高く、非薬物療法の早期介入を目的に「健康運動室」(運動ができる部屋)を新設しました。

3階は、新規事業の住宅型有料老人ホームです。基本的には昼間、通所系のサービスを利用いただき、夜間は当施設の職員がケアを行います。友朋会が提供する住まい…あなたの住まい…名前は「ゆ〜ほ〜む」です。(写真③④)

4階は、認知症対応型通所介護(認知症デイ)これも新規事業です。プログラムの中心は、入浴と音楽療法です。音楽を奏でる、そこから「奏(かなで)」と名付けられました。(写真⑤)

2事業を新たに加え、パワーアップした「ものわすれメンタルクリニック」が、医療・福祉の面で地域へ更なる貢献ができるよう努力して参ります。



写真①1階外来待合室



②2階通所リハ アトリア



③3階 ゆ〜ほ〜む 居間



④3階 ゆ〜ほ〜む 居室



⑤4階 奏 ホール